

# 甲斐市立双葉西小学校 自己評価書

令和2年 2月 7日 (金) 作成

校長 「 中村 雅彦 」 記述者 職名 ( 教頭 ) 「 小宮山 昇 」

学校教育目標 「ともに学び、ともに育つ」

## 学校経営方針

・基本：教師力の向上・信頼によるチーム力の発揮・創意ある協働

- 1 学校教育目標「ともに学び ともに育つ」を常に意識し、めざす「こども像」「学校像」「教師像」の実現に向け、積極的に教育実践に取り組む。
- 2 PDCA サイクルを生かし、より質の高い教育活動を構築する。
- 3 意欲的に研修に励み、専門職としての資質・能力の向上に努める。
- 4 信頼される学校づくりの実現に努める。

## 作成にあたって

○「教職員自己評価」を中心に「児童アンケート」「保護者アンケート」を加味しながら分析を行った。

○結果については、以下の考えを基本としてまとめていくことにした。

## 教職員自己評価に関して

- ・ A回答（そう思う）とB回答（ややそう思う）を合わせて肯定的な回答として捉えることとし、AとBを合わせた回答率が90%を上回る項目は「達成できている」と評価する。
- ・ 肯定的な回答の回答率が80%を下回る項目は「本校の課題」とする。
- ・ 市内小中学校の数値と比べて、A回答に10ポイント以上差がある項目は、「本校の特長」として捉える。

## 保護者アンケート・児童アンケートに関して

- ・ 教職員自己評価と関連がある項目について適宜取りあげる。

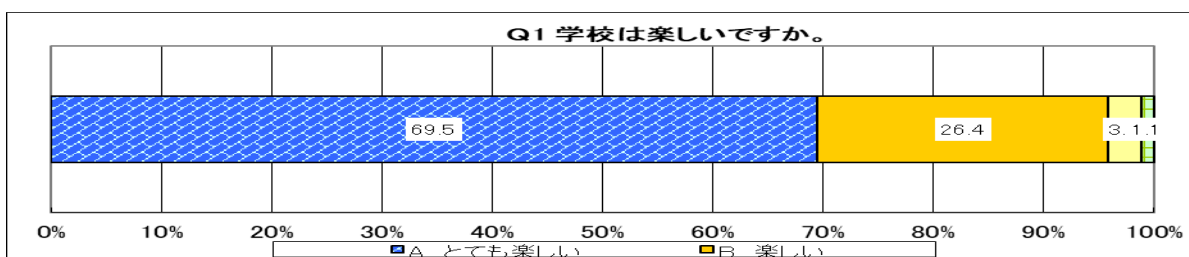
## 1 全体評価

### ○教職員自己評価から

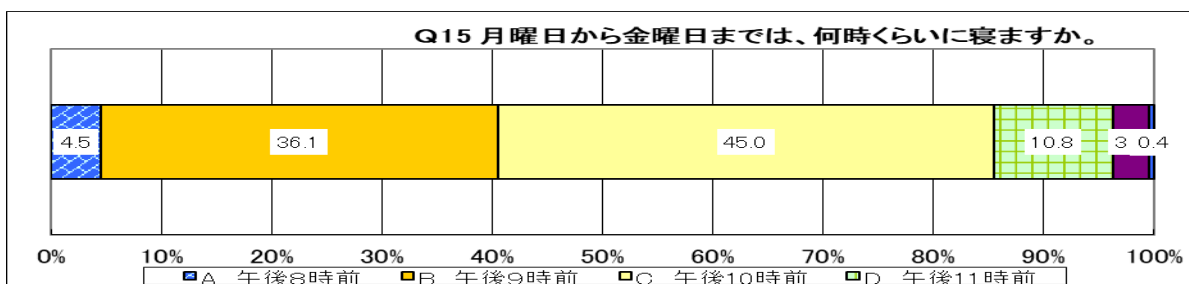
- 肯定的な回答が57項目全てで90%を超えており、全ての項目が「達成できている」と評価できる。つまり、本校職員が高い意識で教育活動に取り組んでいることがわかる。

### ○児童アンケートから

- 肯定的な回答（90%以上）が27項目中17項目あり、残りの10項目の6項目についても80%を超えている。特にQ1「学校が楽しいですか。」では肯定的な回答が96%にも達しており、児童は概ね充実した学校生活を送っていると考えられる。しかし、C・D回答の児童がいることには引き続き留意し、授業の様子や等の様子を個別に見ていきたい。



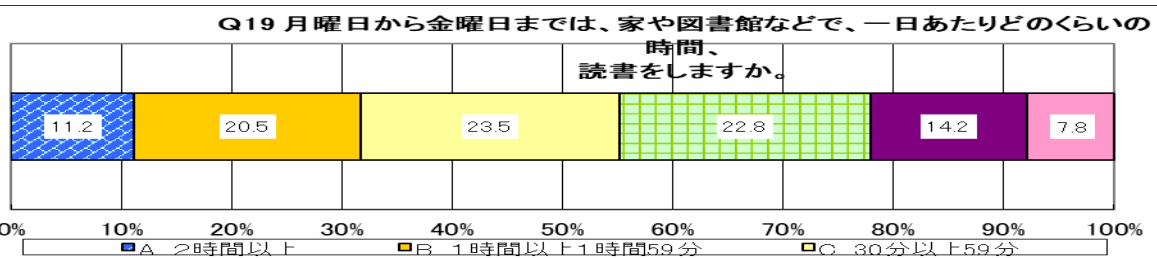
- この中で最も肯定的な回答率が低かったものは、Q15の就寝時刻で、午後9時以降に就寝する児童が60%にもなる。健康な生活を送る上で小学生は9時間から10時間の睡眠時間が必要であるため、好ましい状況とは言えない。意図して学校で指導を行い家庭にも啓発を図っていく必要がある。



- 肯定的な回答が80%を超えなかった以下の項目は、本校の課題となる（Q15は除く）。  
Q19「月曜日から金曜日までは、家や図書館などで、1日あたりどのくらいの時間、読書を読みますか。」に対しての否定的な回答（1分以上9分+全くしない）が22%。

### ○保護者アンケートから

- 肯定的な回答が（90%以上）26項目中11項目あり、残りの15項目についても10項目が80%を超えている。Q1「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思う」に対しての肯定的な回答が96%と高く、児童の回答と同率となっている。保護者も概ね学校に対して満足していることが窺える。
- 肯定的な回答が80%を超えなかった以下の項目は、本校の課題となる。
  - Q13「お子さんは宿題の他にも家庭で自主学習をしていますか。」に対しての肯定的な回答が70.7%
  - Q14「お子さんには、困ったことがあった時に相談などのできる友達がいますか。」に対しての肯定的な回答が76.6%
  - Q16「学校は、子ども達に学校外でも挨拶をするように指導していると思う。」に対しての肯定的な回答が77.8%
  - Q22「お子さんは家で平日一日あたりどのくらいの時間、読書を読みますか。」に対しての否定的な回答（10分より少ない）が45.2%。



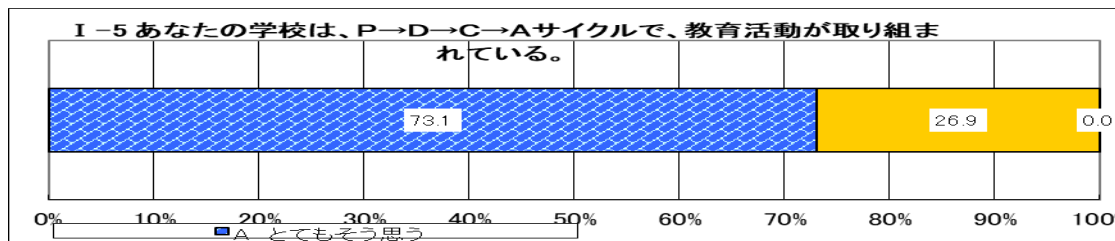
- ・読書離れが顕著で、ふだんの話からも YouTube を長時間見ている児童が多い実態となっている。こちらについても、学校での指導とともに、家庭への啓発も行っていくようにする。

## 2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

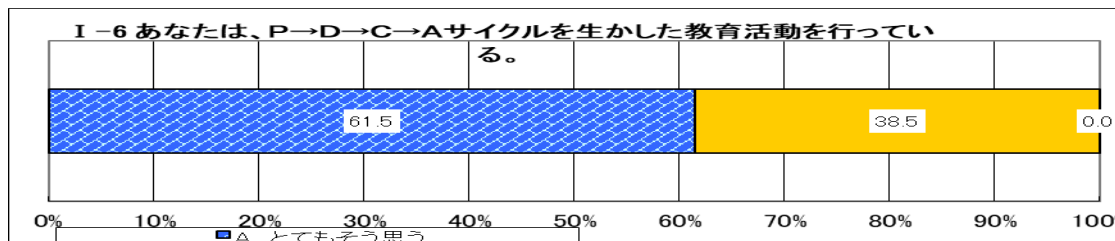
### I 学校教育目標に関して・学校経営について

○教職員自己評価から

- ・8項目全て肯定的な回答となっている。学校教育目標や重点目標の具現化に向け、年間を通して全教職員が共通理解のもと、一体となって教育活動を計画し、実施していることが見える。
- ・Q5 P→D→C→A サイクルでの教育活動についての A 回答は市 A 回答を約 11% 上回り、本校の特長と言える。



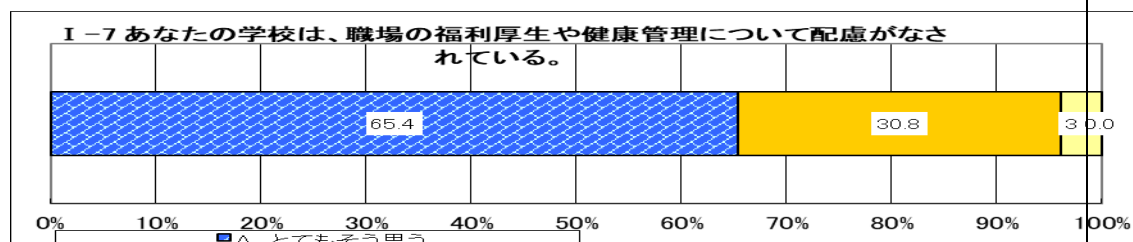
- ・Q6 PDCA サイクルを生かした教育活動についても、A 回答が市 A 回答を 12.8 ポイント上回り、本校の特長と言える。



これらは行事や取組が終わるたびに次年度に向けての反省が行われてきたための成果と考える。

○教職員自己評価から

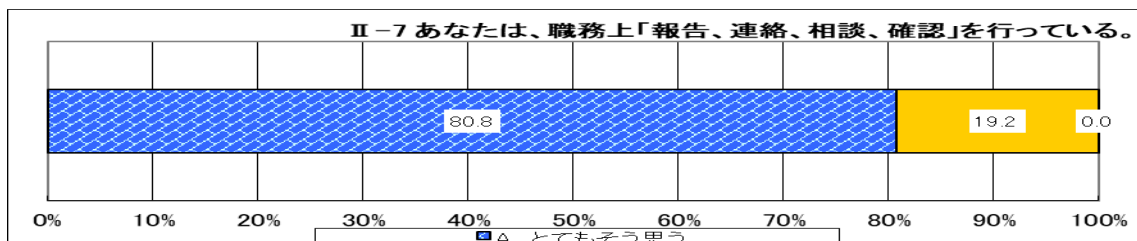
- ・Q7 職場の福利厚生や健康管理への配慮は A 回答が 65.4% となっている。市の A 回答よりは 4 ポイント近く高いが、I の学校目標に対する項目の中では A 回答が一番低い。それぞれがワークライフバランスを整え、ゆとりのある健康な生活を心がけるよう意識をしていく。また学期ごとのストレスチェック等も計画していく。



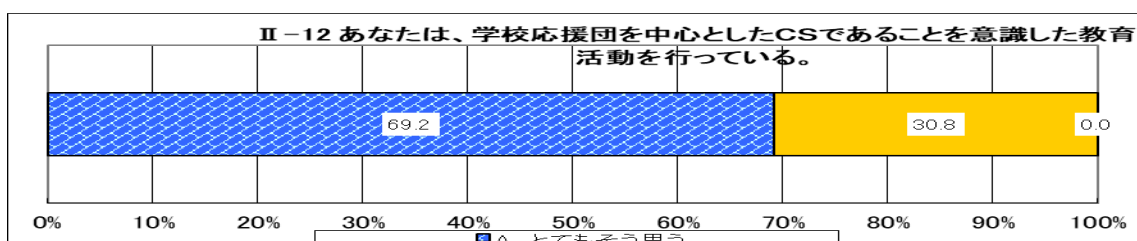
## Ⅱ 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）

### ○教職員自己評価から

- ・ 12項目全て肯定的な回答となっている。特にQ7職務上の報告、連絡、相談、確認についてはA回答が80.8%もあり、チームでの対処等の組織的な取組が行われていることの証明となっている。

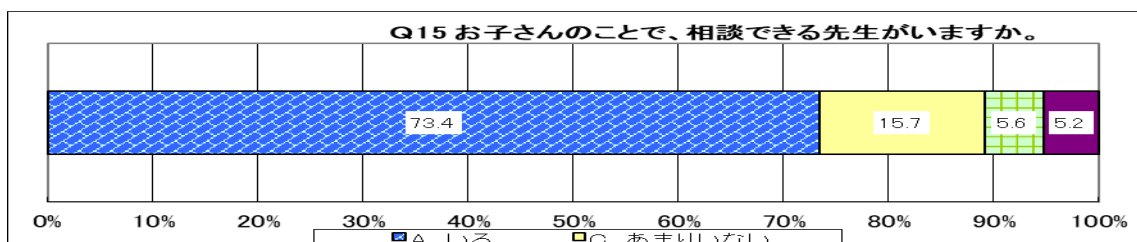


- ・ 本校オリジナルの項目となるが、Q12学校応援団を中心としたCSであることを意識した教育活動については、100%の肯定的回答となっている。何と言っても本校の特長であるCSの活動については、全職員共通理解をして活動に取り組んでいる成果と言える。



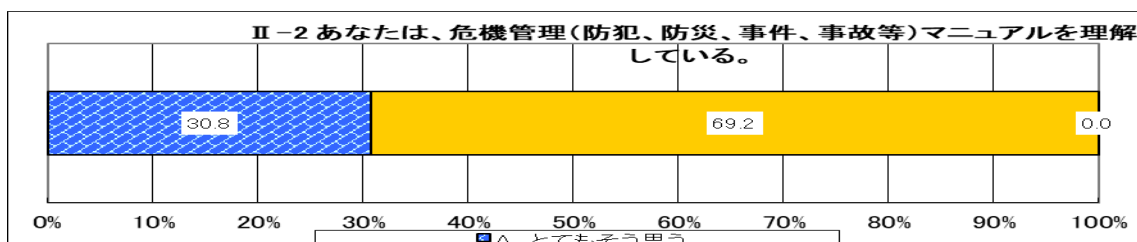
### ○保護者アンケートから

- ・ 学校運営に関する項目全て肯定的な回答となっている。特にQ15子どものことで相談できる先生がいるかについては、73.4パーセントがA回答となっており、保護者の信頼も得ていることが窺える。



### ○教職員自己評価から

- ・ Q2危機管理マニュアルの理解については100%が肯定的な回答であった。しかし、A回答の割合は30.8%であり、他の項目に比べて低めとなっている。頻発する災害について危機管理は重点事項と考えられる。自らの命を守る防災教育に力を入れ、また実効的な防災訓練の際には危機管理マニュアルと照らし合わせながら行うようにしていく。



達成状況

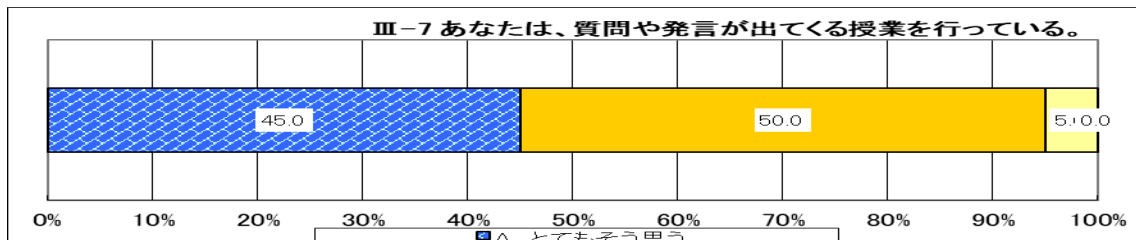
改善策

### Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

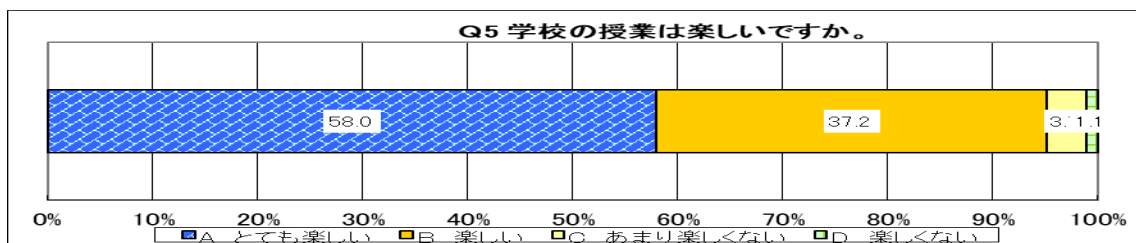
○教職員自己評価から

- ・ 10項目中9項目が100%の肯定的な回答となっており、残り1項目についても95%の肯定的な回答となっている。特にQ7質問や発言が出てくる授業については、A回答が市のA回答より9ポイント高く、新学習指導要領を意識した授業改革の兆しが伺える。



○児童アンケートから

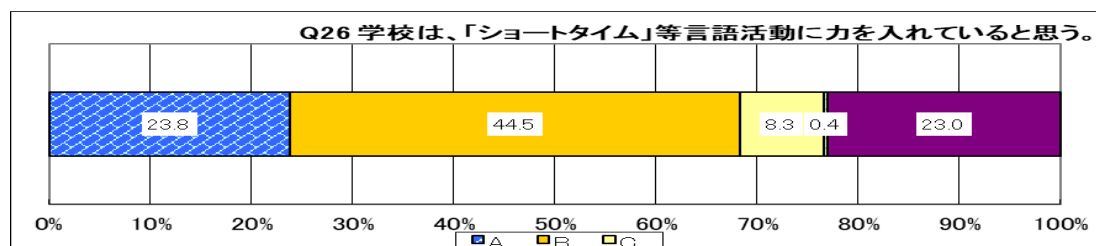
- ・ 学習内容に関わる8項目のうち5項目が90%以上の肯定的な回答となっており、残り3項目も80%以上の肯定的な回答となっている。児童にとって授業が楽しくわかりやすいものになっていることが窺える。ただし、CDと回答した数パーセント児童がABに近づくように、更にPDCAサイクルを生かした授業改善に励んでいく。



改善策

○保護者アンケートから

- ・ 学習指導についての項目のほとんどが90%以上の肯定的回答となっている。しかし、Q26ショートタイム等言語活動の力の向上については、68.3%の肯定的な回答に止まり、わからないが23%となっている。次年度は3年生以上ではショートタイムが授業時間となる。4月の学年総会を使って、学習指導要領改訂の概要やショートタイムの学習についても、保護者に伝え理解を促していく。

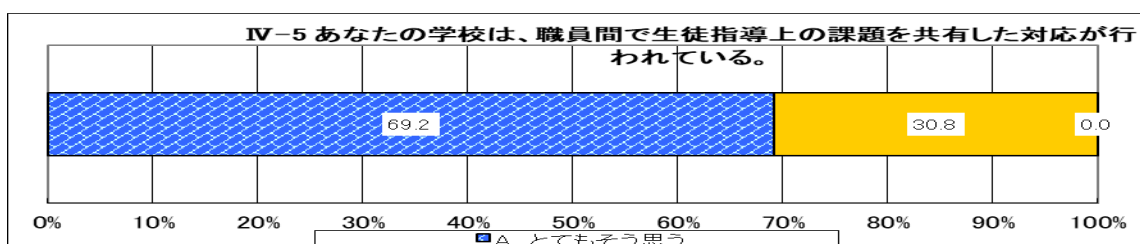


### Ⅳ 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

○教職員自己評価から

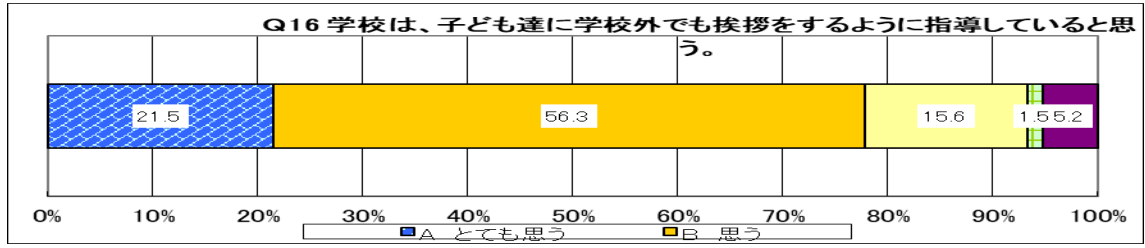
- ・ 生徒指導に関わる全項目が100%の肯定的な回答となっている。教職員が意図的・計画的に児童生徒指導にあたっていることが反映されている。



改善策

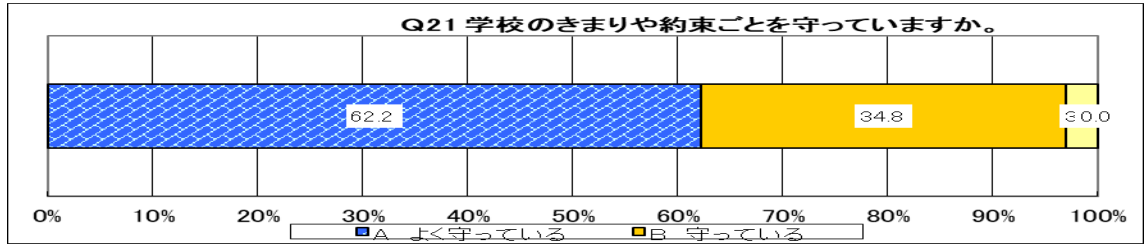
○保護者アンケートから

- ・あいさつをすることについて、家族での挨拶励行が95.9%の肯定的な回答となっており、また地域の方へのあいさつ励行も85.9%の肯定的な回答となっている。しかし、Q16 学校が子ども達に学校外でも挨拶するように指導しているかについては、22.7%が否定的な回答となっている。学校の取組と家庭での捉え方のギャップ、そして児童の地域での挨拶が思ったほど浸透していないことについては、取組を再考していく必要を感じる。



○児童アンケートから

- ・生徒指導に関わる3項目とも肯定的な回答となっている。清掃活動はA回答が78.4%、委員会活動はA回答が92.6%と、児童自身も真剣に取り組みを自覚できる活動となっている。この3項目の中ではQ21 学校のきまりや約束事についてのA回答が62.2%で、他よりも低い。きまりや約束事の意味を理解させながら、規律正しい健康な生活を送れるよう、継続した指導を図っていく。

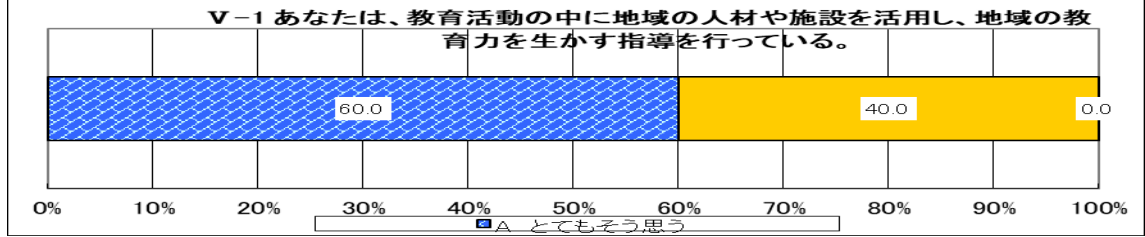


V 地域との連携について

達成状況

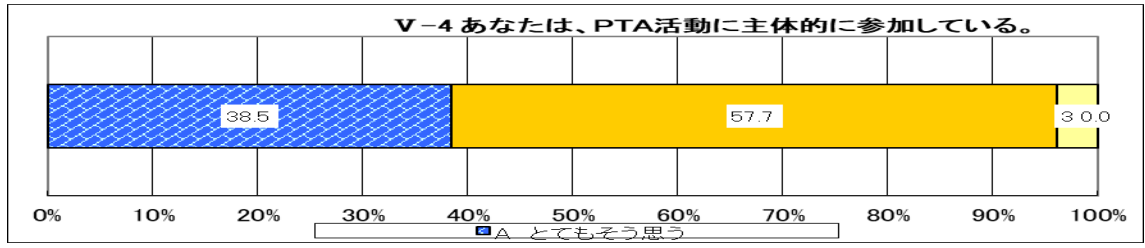
○教職員自己評価から

- ・地域との連携に関わる10項目のうち9項目が100%の肯定的な回答であり、残る1項目についても96.2%が肯定的な回答となっている。A回答については60.0%と市全体の37.8%より大幅に多いため、地域人材活用に対する意識の高さが表れている。



改善策

- ・課題としては、Q4 PTA活動への主体的な関わりが挙げられる。地域連携の項目の中で唯一C回答があった。PTAでの教職員の関わりとその中での役割を明確にしながら、PTA活動にあたっていく。



| VI 学校の特色に関して                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                         |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 達成状況                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | <p>○教職員自己評価から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 9項目全てにわたり肯定的な評価が100%となっている。全職員が共通理解し、地域や児童の実態を把握しながら、教育活動を推進していることがわかる。今後も学校開放日、双西タイム、あいさつ運動、心の教育、ショートタイム等、特色ある教育活動に継続した取組を図っていく。</li> </ul> |
| <p><b>3 まとめ</b></p> <p>＜成 果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員が日頃から高い課題意識を持って教育活動に努めており、学校教育目標に基づいた適切な学校運営がなされている。</li> <li>・ 地域と学校が良好な関係を築いており、コミュニティ・スクールとして、「地域とつむぐ授業」が推進され、特色ある学校づくりがなされている。</li> </ul> <p>＜課 題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の方々との交流があり、学校内において児童は地域の方にもあいさつができるようになってきている。しかし、学校の外に出たときの地域の中でのあいさつは、想像よりも広がっていないことが学校評価からわかる。心をつなぐあいさつができる児童が増えていくよう、今後も指導を継続していく。</li> <li>・ 地域とともにつむぐ授業を、これからも継続的に深め広げていくためにも、活動の広報を進め、保護者の更なる協力が得られるようにしていく。</li> </ul> |                                                                                                                                                                                                         |